

1、評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0471300244
法人名	社会福祉法人 迫川会
事業所名	いちょうの里 グループホーム ぎんなん荘
所在地 (電話番号)	〒987-2203宮城県栗原市築館字下宮野館108 (電話)022-22-7888
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 7 月 10 日

【情報提供票より】(平成 20 年 6 月 10 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13年 8 月 4 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人 非常勤 人 常勤換算

(2)建物概要

建物形態	○併設/単独		○新築/改築	
建物構造	木造造り			
	1 階建ての		1 階 ~ 階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,100 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 1000円		

(4)利用者の概要(6 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 85.1 歳	最低	60 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	栗原中央病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>のんびりとした環境に恵まれ、交通状況もよく、医療機関も確保されており、経験豊かな職員の対応で安心して生活ができる「グループホームぎんなん荘」と職員が話されていた。建物は木材をふんだんに使った温かい感じである。併設されている施設が開設されてから13年、管理者初め、数人の職員が異動し現在に至っている。そんな経験豊かな職員と共に過ごされている入居者は穏やかでゆったりと寛がれ生活されていた。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前は4項目の改善課題があった。そのうちの3項目は業務の見直しとして取り組まれ改善されていた。市町村との連携は、地域の介護教室等に、管理者が講師として出向くなど働きかけている。行政側からも地域住民に向け認知症について説明するなど、工夫をし、地域で支えるよう積極的に応援指導をしていただきたい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全員で話し合いを持ち取り組んだ。日常業務の振り返りとなり、記録の仕方、保管、毎年感じているが簡単なようでやり切れていない事に気付いた。改善課題計画シートを活用して確認しながらよりよいサービスに向けた取り組みをしていただきたい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に開催している。業務の取組状況、研修、事業計画、行事計画などの報告を主としている。家族、入居者、職員を交え、気軽に話し合える場とした雰囲気作りをし、忌憚のない意見、要望を引き出し、運営推進会議の内容を充実したものにし、その意見を反映させ、さらなるサービス向上に取り組んでいただきたい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時にどの職員にも気軽に話せるような関係性ができていたり、意見箱を設置するなど対策を講じている。これまでにいくつかの意見が出ており、申し送りノートを活用し職員間で話し合いを持ちその都度対処している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事に参加したり、春と秋の交通安全期間の街頭指導に出たり、事業所に招いたり、積極的に交流の場を設けている。職員の力量から推察して、入居者の思いを引き出し、地域の一員として入居者自身が地域行事に参加できるよう、尚一層の努力をお願いしたい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念のもと、入居者の生活を中心とした理念を職員、入居者と一緒に毎年見直し、各ユニットの特徴を捉えた理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者が筆で書いた理念を各ユニットのリビングに掲示している。朝の申し送り時間に職員全員で復唱し、確認しあい実践で共有すべく取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣り合わせた敷地に保育所があり、散歩に立ち寄りたり、地域の夏祭り、運動会に招待されたり、春と秋の交通安全期間には道路に出て、職員、時には入居者と共に街頭指導に出るなど、地域と交流を図っているが、尚一層の努力をお願いしたい。	○	地域の行事に参加したり、事業所に招いたり、交流はできているが入居者が地域の一員としてとけこめるよう考慮していただきたい。職員の力量からしても充分に可能と思われる。入居者より思いを引き出し、さらなる地域参加に向けた対応を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員が自分達のケアの見直しの機会と捉え、全員で話し合いを持ち取り組んだ。記録の仕方、保管等、改善計画シートを活用して確認しながらより良いサービス向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催している。業務の取組状況、研修、事業計画、行事計画等の報告を主としている。家族、入居者、職員等を交え、気軽に話し合える場とした雰囲気作りをし、忌憚のない意見、要望を引き出し、運営推進会議の内容を充実し、その意見を反映させ、さらなるサービス向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	制度改正に関わる事柄について相談をしている。地域での介護教室等に管理者が出向き講師をしている。また、事業所と行政が連携し地域で認知症を理解していただくための地域啓発事業等をお願いしたい。	○	事業所は、積極的に地域に働きかけ相互関係がとても良好である。しかし、地域住民は認知症ケアの理解をするまでいたっていない。地域に向けて積極的に行政から説明をしていただき事業所が認知症ケアの拠点として地域と共に支え合い、さらなるサービス向上に協力をしていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に発行している機関紙と入居者の様子を担当が手書きにし送付している。連絡の取りにくい方には電話で連絡をしている。預り金についても面会時に説明し、確認印をいただくなど明解にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にどの職員にも気軽に話せるような関係性ができていたり、意見箱を設置するなど対策を講じている。これまでもいくつか意見等が出ており、申し送りノートを活用し職員間で話し合いを持ちその都度対処し反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えているが今年度一人の新人を迎えた。事前研修を多くもち、個々の対応について引継をする。初対面は笑顔で第一印象を大事にし、入居者にわかりやすい言葉で馴染んでいただくまで紹介し親近感を持っていただく。家族等には機関紙、インターネットで紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は各職員が10日間気付きノートを記入し管理者がコメントを入れたり、会議に取り入れたりしている。対外研修には職員一人当たり年2～3回ほど参加し、それを報告し全職員で共有している。また、資格取得に向けても勤務調整、時間外に勉強会を設けるなど配慮し取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会に加盟し、定期的に北ブロックの研修会に参加している。できるだけ若い職員に声をかけ、施設見学や情報交歓会を通して勉強する機会を設けている。年1回地区ブロックのソフトボール大会があり親睦を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定者に見学の機会を設け、他入居者との交流を図りつつ、本人の気持ちを考慮し、馴染みのあるものを持込んでいただく。広範な地域からのご利用者が多く、同法人のサービスをご本人、家族が利用されていたり、ボランティアをされたりと普段から馴染まれている方が入居されることも多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お互いを楽しみを持ち共感し合える関係作りをモットーに「あんたもこの年になればわかる」と入居者が口癖に言われている。生活の場を通して入居者同士、入居者と職員がさりげない行動、対応の仕方、会話から共に支えあう関係が築かれていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅を空家になっている入居者の要望で草取りに行ったり、植木バサミを自宅から持ってきて、施設の植木の手入れをしたり、このたびの地震の後に自宅に戻り様子を見に行ったりと入居者の思いに、職員はその都度付き添い対応をしている。訴えのない入居者については家族、日常の様子から読み取り、対応している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを基に通常のケアの状況を踏まえ、本人家族の意向を取り入れ作成し、職員全員が取り組めるよう事例をあげて研修し関わっている。職員は毎日計画書に目を通し、チェックをしている。作成した計画書は家族に説明、または送付し承認を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回担当を決め、カンファレンスを行い見直し、評価してる。それを家族、入居者に同意をいただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者、家族の要望により、通院、外出や、希望があれば外泊の支援をしている。ショートステイの利用に関しては空きがなく現在は支援に至っていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設されている特別養護老人ホームの往診医師に診察をしていただく方、かかりつけ医を継続されている方がおり、職員が付き添い対応している。情報はその都度家族に連絡している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者、家族にアンケートをとり、それに応じ、終末期の看取りに於ける話をし、意思確認書に同意を得ている。併設の施設より、毎日、1時間看護師が来ており、対応等について指導、助言を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各ユニットのリーダーの指導がゆき届いており、職員の入居者に対してのさりげない声がけ、対応から優しさが感じられた。書棚もおしゃれに目隠しをし、細かい気づかいが見られた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活を尊重し、基本の流れに添った対応をしている。終日編物に執着している方、雑巾縫いに没頭している方、何もしていないことに苦痛を感じている方など、ころあいを見てコミュニケーションをとり対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は栄養士が作成しているが、その中から工夫し、食べたい時に食べたい物を食べる。水分補給を兼ね夏場のおやつはスイカが多い。畑で取れた野菜を食卓に出すなど入居者と一緒に味付け、盛り付けをし、職員も一緒に食卓を囲んでいた。後片付けも役割が決まっており、お話ししながら手早くされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日を除き毎日午後に入浴を設定し、入居者の希望に添った対応をしている。浴室、浴槽は広く、ゆったりとしており、時には温泉気分です数人で入る事も可能である。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	早朝から掃除をしたり、モップ拭き、自前の剪定バサミで植木を切ったり、芝生の手入れ、網戸張りや職人顔負けの仕事振りで臨まれる方もいる。常に職員は感謝の気持ちを忘れない。毎年行われている事業者向けの交流、入居者同士の併施設交流スポーツ大会に参加し今年準優勝に輝くなど入居者の励みとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	グループホームの敷地も広く自然に恵まれており、散歩されたり、買い物や通院、地域の行事参加と外出の機会も多い。入居者の希望により、自宅に戻り草取り、ネズミ駆除、墓参りを職員と一緒にするなど支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	併施設との連携もできているので日中は鍵をかけずに出入りが自由であり、職員も一人ひとりの状況を把握し所在確認を怠らない。無断外出に備え、玄関に鈴をつけるなど対応している。職員は趣旨を理解している。敷地内は柵がない事から全体にセンサーを張り巡らしているが作動していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で年2回夜間想定も交え、消防署立会いのもと実施している。各ユニットに人数分の防災頭巾や、外靴を玄関入り口の近くに準備されていた。今回の地震では、避難するまでではなかったが、ライフラインが停止した為、非常食を食べのいだ、地域の配食サービス事業所から好意的な言葉をいただいた。今回を教訓にこまめに避難訓練をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分、排泄、体重のチェック表を参考に一人ひとりの状況に合わせて栄養士の助言により対応している。食事制限や高カロリーの補食者には医師の指示により対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の採光を取り入れたゆったりとした建物で広々とした食堂兼リビングには時代を感じさせるテーブルと家具が工夫された配置に置かれていた。消防署より暖簾、家具の配置にクレームがついたが雰囲気を大事に考慮したと話されていた。入居者はお気に入りの場所でゆったりと寛がれていた。掲示物は入居者の目線に合わせ、入居者の願い事が短冊に託した七夕飾りが季節を感じさせてくれた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	床張りの居室には簞笥とベッドが準備されているが畳を敷いたり、子供の頃から愛用していた鏡台やご主人のお位牌を持ち込まれたり、子供さんから送られたものを飾られたり、思い思いに工夫された居室作りをされ居心地のよさが感じられた。		